



年齢と共に筋肉や運動機能は低下します！

「歩ける(動ける)を、 続けるために」



作業療法士・理学療法士 等による個別機能訓練

目的に沿ったリハビリプランを作成し、ご利用者様に合った総合的な機能トレーニングを実施。



振動マシンビブラ

新規器具、機械を導入

「転ばずに歩く」をテーマに、様々な器具、機械を導入し、より効果的なトレーニングを実施。



トレーニング結果が一目瞭然 各種測定表を提供

現在の、お身体の状態を知って頂けるよう、検査結果は印刷してお渡します。



認知症予防 脳活性化トレーニング

機能訓練の各種プログラムに脳の活性化を図るトレーニングを(デュアルタスクトレーニング)を行います。

天然温泉(男女別)



機能訓練室



カラオケルーム



足湯(人口炭酸水)



レストラン方式の昼食 (メニューの中から好きな料理を選択)



ゲームリハ(ポケットボール)



デイサービスセンター リハビリデイ 東町

☎(0144)82-3400 月～金 9:00～17:00 (祝除く)
担当：前田

白老町東町2丁目4-12 白老高齢者複合施設 検索

元気のつぷり

オモニ

▼国立の博物館として全国で5施設目、アイヌ文化の伝承・発展拠点としては初めてとなるナショナルセンター「ウポポイ」(民族共生象徴空間)が7月12日、新型コロナウィルス感染の影響による2度にわたる延期から、約2カ月半遅れで開業を迎えた。白老町としては待ちに待った日となった▼「元気のつぷり」も当然、施設の魅力や経済効果への期待、まちづくりへの活用策、課題などに言及するべきだろう、とは思いますが、もっともらしい自説展開は性に合っていない。ただ、昨年4月に白老に赴任してから長く取材させてもらったウポポイ、アイヌ文化については思うところがあります▼私が小学校に入る前後のころだったか。近隣に住む同じ年ほどの女の子が母親を「オモニ」と呼んでいるのを耳にした。その音は非常に優しい響きでまさに「ママ」「かあちゃん」「お母さん」。いい言葉だな。私は意味も分からず家で親に話すと、差別的否定をされ、触れてはならない部分という感覚を植え付けられました。今から半世紀も昔の話です。その後「オモニ」は朝鮮語と知りました▼アイヌ民族の血を引く若者たちから、祖父母、親が語った差別、偏見の昔話も聞いた。どうしてそういうつらい話が生まれるのか。先の私の幼いころの話は、その後多くの人に出会ったり、書物などによって、人種や民族の違いによる差別、偏見はなんてばかばかしいことだと学んだ。私の精神的な支えの一つ、日本国憲法前文も教えてくれた▼その精神を具現化し、来場者に伝えるのがウポポイ。世界を舞台に、民族の文化伝承・発展の発信拠点としての活動が始まった。

(竹)

白老町の人のおごき

総人口 16,558人(前月比21人減)
男 7,827人 女 8,621人
世帯数9,399世帯(前月比4世帯増)
(令和2年6月30日現在)

■編集 広報元気編集室(一般社団法人しらおい振興センター 白老町大町1丁目1番1号)
TEL 0144-82-8367 FAX 0144-82-8368 Eメール katudou@shiraoi-tc.jp

■発行 白老町企画課(白老町大町1丁目1番1号)
TEL 0144-82-8213 FAX 0144-82-4391 Eメール kikaku@town.shiraoi.hokkaido.jp
白老町 HP <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/>

